

2022 学園一斉防災訓練計画書等

私たちは高校生防災セミナーを通して学校の防災力を高めるため MDPT(Meiden Disaster Prevention Team)というチームを立ち上げ活動を行っています。

今まで学んできたことを活かして11月に行われる避難訓練をより実践に近い形で実施していきたいと考えています。新たに考えたことや改善案を含めて以下の内容についてご検討よろしくお願い致します。

MDPT メンバー

T3D 唐澤 優宇,嶋根 由佳

J3A 富岡 千遥

G2G グリーン ジュリアン

G2A 後藤 友維

T2A 鈴木 皓太

G1A 中谷 有喜

以上7名

次 第

1 後期避難訓練実施要項

1.1 階段降下方法について

2 避難経路における危険箇所に関する報告書 [報告・検討]

3 帰宅支援キット保管場所の提案 [要検討]

4 トラップカード実施についてのお願い [要検討]

5 生徒撮影 [許可]

6 動画作成 [許可]

7 教室掲示 [改善案]

8 SNS 公開について [許可]

1.1 階段降下方法について

2022/10/20

科学技術科 都市環境分野 3年

MDPT 嶋根由佳

1,実施目的 過去の避難訓練の階段による混雑が目立ったため、スムーズに降り時間短縮のできる階段の使い方に変更する。

2,日時 11月16日(水) 4時間目 学園一斉防災訓練

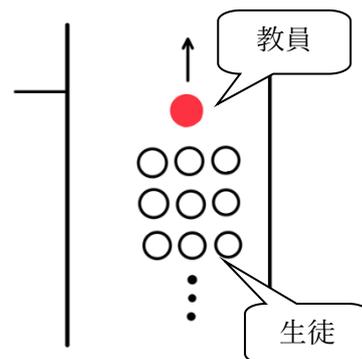
3,対象 全学年

4,内容 東館：A・B階段を利用するクラスが少ないため、引率の教職員の判断により順次避難を行う。

西館：C・D階段を利用するクラスは多いため、各階ごとに階段を幅広く使用しながら順次降りる。

[手順]

- ① 「安全確認が終わりましたので、生徒のみなさんは冷静に落ち着いてすみやかに避難してください。なお、西館の生徒は4階から順次避難を開始してください。」と放送が流れる。
- ② 引率教員は生徒を廊下に出す。
- ③ 4階の生徒は、引率教員を先頭に3列になり階段を幅広く使用し階段の避難を開始する。
- ④ 4階の最後のクラスは3階に「4階の生徒は避難が終わりました。この列に続いて3階も避難してください。」と口頭で3階の先頭の引率教員に伝える。
- ⑤ 3階も同様に行う。
- ⑥ 2階も同様に行う。





① ガラスの飛散・外壁落下・蛍光灯落下の危険性



② 倒壊の危険性



③ 噴き出す危険性



④ 壁の倒壊・鉄格子落下の危険性



⑤ アンテナ落下の危険性



⑥ 落下の危険性



⑦ 瓦が落下する危険性



⑧ ヒビの入ったガラス



⑨ 落下の危険性



検証結果

1 武道場

倒壊の危険性は低いものの建物からの落下物が多いことに加え、自動販売機の転倒など避難経路として使用することはできないと推測する。

2 プール横～グラウンド

いくつかの危険箇所が見受けられ、避難経路として使用することも懸念される。そのため、改善が見込めない場合は、この経路を使用した避難は行えないと判断する。

ただし、校内の設備であることが確認されているので、改善する余地がある。検討をお願いしたい。

3 校舎東側の避難経路(公道)

こちらにもいくつかの危険箇所が確認された。道幅も最も狭いところで約 2.9m しかなく、ここを経路とするには懸念される。また、学校の私有地でないこともあり、改善が見込めない。

以上の理由から、プール横～グラウンド、校舎東側の避難経路を使用することはできないという結論に至った。改善できる箇所もあるが多くの問題も見つかったため、避難場所を変える、学校に留まることが最善だと考える。

2022/10/18 現在 事務室にて報告書を提出し、改善依頼をしている。

帰宅支援キット保管場所の提案

2022/10/14

普通科 普通コース 2年 MDPT グリーンジュリアン

提案 常時教室の机の横のフックに帰宅支援キットを掛ける

目的 大規模災害時に速やかに帰宅支援キットを持って避難をできるようにする

期間 2022/11/8～

対象 本校の全クラス

現状 現在帰宅支援キットは鍵のかかった教室のロッカーに保管されており、大規模災害時に速やかに取り出せない状況になっている

利点 大規模災害による校舎からの避難後、校舎に戻れないことも想定しなければならない。そのため、個人を守る最低限のものが入った帰宅支援キットを携帯することにより、避難時及び避難後の生徒を守ることに繋がると考える。

また帰宅支援キット内にある軍手を使用することにより避難中の安全も確保することが可能となる。

以上の利点から大規模災害避難時には帰宅支援キットを携帯することが望ましく、帰宅支援キット携帯までの時間短縮のため常時机の横で保管することが大変望ましいと考えられる。

備考



※現在の状況



※フックにかけた場合

トラップカード実施について

2022/10/17

普通科 普通コース 1年 MDPT 中谷有喜

1,実施日時 2022/11/16 4限
学園一斉防災訓練時

2,実施目的 大規模災害時に発生が予測される軽度けが人に対し、
訓練を行う必要がある。
教職員及び生徒がどのように対応するのかを検証し、
対応力を高める。

3,トラップカードについて

今回の学園一斉防災訓練では、
MDPT から依頼された生徒の首に軽度障害名が書かれた
カードをかけてもらう。
ケガ人の対応をするとともに、1人は怪我人を撮影しもう1人は
クラスの避難の様子を撮影し、記録する。
トラップカードについては画用紙などでMDPTが作成する。



ケガの種類

- ・ 擦り傷 (腕)
 - ・ 打ち身 (腕)
 - ・ 軽い捻挫 (足)
 - ・ 打撲 (足)
- ※4クラスを対象に行う

図 作成カードイメージ

5.避難訓練の生徒撮影企画書

2022/10/17 作成
科学技術科 都市環境分野 3年
MDPT 嶋根由佳

1,実施目的 全体の様子ではなく実際に訓練を行っている生徒の目線でクラスのシェイクアウトの様子から避難場所までを撮影し、今後の避難訓練の改善に活かす。

2,実施日時 11月16日(水) 4時間目 学園一斉避難訓練

3,現状 以前の避難訓練の撮影では、生徒の階段や狭い経路の流動性を記録するために防災メンバーと愛工大地域防災研究センターが固定カメラを使用していた。

4,概要 ~~・T1A・T1D・J3Aの指定クラスに各10名~~
各階段2クラスの指定クラスに各5名(8クラス40名)
・トラップカードの4クラスに各2名 合計38名
合計48名

該当する生徒にスマートフォンのストラップを首から下げて避難を行う。
協力してくれた生徒にはストラップを配布。

5,協力の条件 ・タブレットの使用は禁止
・手帳型のケースでないこと
・容量が十分であること
・Androidでも構わないが、Ari DropができるiPhoneが望ましい

6,得られる効果 実際に経路を歩く生徒の様子や周りの生徒との会話の記録が可能。
避難経路の混み具合を記録し、今後、避難経路の改善に繋げる。

7,予算 1人:約500円
38名×約500円=約19,000円
※予算は防災教育チャレンジプランの研究費用で負担

8,スケジュール ストラップの購入
11月7日(月) 協力者一覧を指定クラスの担任に配布
11月10日(木) 協力者一覧の提出
11月14日(月) 該当生徒の説明

11月16日（水）朝にストラップを配布

1

9,協力者一覧表（仮）

協力者一覧

避難訓練時に、生徒にスマホのストラップを首から下げて避難の様子を撮影してもらいます。

以下の条件を満たしている生徒に協力をお願いします。

条件 iPadでの撮影の不可

手帳型のケースでないこと

容量が十分であること

対象クラス T1A・T1D・J3A・・・

人数 5名

学年	クラス	番号	名前	機種（どちらかに○）
				iPhone・Android

※条件を満たした生徒は11月14日（月）に4階CAD室へ集合してください。

学園一斉防災訓練

緊急地震速報・避難準備放送以降の教職員及び生徒の動きについて避難訓練実施要項の要点をまとめましたので当日までに目を通していただくと幸いです。よろしくお願いいたします。

実施日時:2022/11/16 4限目

『教職員の動き』

① 怪我人の確認

- ・避難準備指示終了後
生徒に怪我人がいないかの確認



② 前後扉の開放

- ・前扉を開ける
- ・後ろの生徒に後ろ扉を開けるように指示



③ カーテンを閉める

- ・窓側の生徒にカーテンを閉めるように指示



④ 軍手着用

- ・全生徒に帰宅支援キットに同封されている軍手を着用させる



⑤ 持出品の携帯

- ・帰宅支援キット、iPad、貴重品を鞆の中に入れ持ち出せるように準備させる

※教科書等重いものは出しても良い
※中に入らない場合、帰宅支援キットのみ手持ちを許可する



⑥ 教室周辺の安全確認

- ・教室前廊下やその周辺を安全に通行することが可能か目視にて確認する

※隣教室の教科担当者とも互いに確認し合う



『生徒の動き』

- ・周囲に怪我人がいないかを確認

- ・後ろの生徒は扉を開ける

- ・窓側の生徒はカーテンを閉める

- ・帰宅支援キットから軍手を出し着用する

- ・帰宅支援キット、iPad、貴重品を鞆の中に入れる

※重量のある荷物は出しても良い

- ・安全確認終了の放送まで静かに待機する

⑦ 避難誘導

安全確認終了放送後

- ・教室から退出し集合して待つように指示

- ※2列に並ぶ必要はない
- ※教科担当者は教室に誰も残っていないことを確認する



- ・教室から速やかに退出し担当教員の指示を待つ

⑧ 教室未施錠での避難

- ・全生徒が貴重品を携帯しているため教室は施錠しない
- ・扉は開けたまま避難する



- ・担当教員の指示に従い避難を開始する

⑨ 階段降下方法

東棟

- ・引率教員の指示に従い空いている階段から避難

西棟

- ・上の階から順に避難を開始する
- ・引率教員の指示に従い空いている階段から避難



- ・担当教員の指示に従い空いてる階段から避難をする

⑩ 人員把握・点呼

- ・避難集合場所に到着後人員点呼を実施
- ・学級委員との二重確認を行う。
- ・教科担当者は人員確認用紙に記入後、北：学年主任 南：松本靖に提出



- ・学級委員:教科担当者とクラスの人員確認
- ・他生徒:2列に整列し静かに待機する